

# 特定非営利活動法人サロン 2002

## 2014 年度 活動報告書

### はじめに

2014 年 5 月 31 日に設立総会を開き、10 月 14 日に東京都から認証され、10 月 24 日に法人登記が完了し、特定非営利活動法人サロン 2002 が法的に設立しました。本報告書は、設立初年度である 2014（平成 26）年度の総括であり、NPO としての事業および法人化認定以前の事業が含まれています。

私たちは以前から、「スポーツを通じた“ゆたかな暮らし”づくり」という“志”の実現に向けてさまざまな事業に自発的に取り組んできました。法人格を取得したからといって、私たちの意識が大きく変わるわけではありません。活動の柱となるのは月 1 回の月例会であり、同志のネットワークを大事に育て、広げていくことを重視しています。法人化以前と何ら変わりません。

変わったところは、より「社会」を意識するようになったことでしょうか。そして社会の担い手として、いくつかの新事業に、他団体と共催の形で携わったのが 2014 年度です。

任意団体のころは、サロン 2002 が表に出ることはあまりしてきませんでした。遠慮して「共催」を名乗ることを控えていたし、責任ある立場に身を置くことを避けてきたのも事実です。それが 2014 年度は、一般社団法人日本フットサル連盟との共催で「ユースフットサル選抜トーナメント 2015」を、筑波大学オリンピック教育プラットフォーム（CORE）との共催で「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2015」を、そして神戸市との共催で「賀川浩氏 FIFA 会長賞受賞記念講演会」を開くことができました。このほかにもユースサッカー「DUO リーグ」との連携で進めてきたスキンプロジェクト（別名「リサイクルプロジェクト」）は、実質的には NPO 法人サロン 2002 が担い手となっています。地道に続けてきた月例会とともに、これらは今後も育てていきたい大切な事業です。

法人化にともなう事務手続きが増えたにもかかわらず、依然として個人商店の域を出ない組織の脆弱さは課題です。理事長が一人でやっていたものが、他の理事にも具体的な仕事が回ってくるようになったのも小さな変化です。事務局機能の強化とともに、少しずつ軌道に乗せていきたいところです。

「中心も周縁もない」ネットワーク型クラブの社会実験は、NPO 法人が運営するネットワークと、“志”実現のための事業への関わりという形で、次の段階に踏み出しました。引き続き、何ができるか、何をすべきかは、走りながら考えます。

まずは 2014 年度の記録として本報告をまとめました。ご査収ください。

2015（平成 27）年 5 月  
特定非営利活動法人サロン 2002  
理事長 中塚義実

# 特定非営利活動法人サロン 2002

## 2014 年度 活動報告書

### 目 次

はじめに.....	1
NPO法人サロン2002理事長 中塚義実	
目 次.....	2
I. 月例会活動報告.....	3~11
II. クーベルタン・嘉納ユースフォーラム 2015 報告.....	12
III. ユースフットサル選抜トーナメント報告.....	13~14
IV. 賀川さん関連行事報告.....	15
V. スキンプロジェクト報告.....	16

# I. 月例会活動報告

《2014年6月 月例会》

\*\*\*\*\*

(サロン 2002NPO 化記念キックオフ月例会)

【テーマ】NPO サロン理事長がワールドカップを語る!

\*\*\*\*\*

【日時】2014年6月14日(土)19:10～21:50

【会場】フットボールサロン 4-4-2(墨田区江東橋 4-16-5 SK ビル B1)

【演者】中塚義実(特定非営利活動法人サロン 2002 理事長 /筑波大学附属高校教諭)

聞き手:今廣佳郎(フットボールサロン 4-4-2 スタッフ)

【参加者 23名】池田知之と妻・子ども 2名、今廣佳郎、梅本嗣、大河原誠二、小川有奈、荻原崇夫、金子正彦、久保田淳、小池 靖、齋藤宣彰、笹原勉、佐藤大介、柴田智博、菅原恭一、鈴木弓莉、田嶋亮、中塚義実、東海林毅、二宮和穂、原陽司。

【報告書作成】小川有奈

【概要】

2014年5月31日。国立競技場が長い歴史にピリオドを打ったその日、「スポーツを通してのゆかたかくらしづくりを」を“志”に掲げ、20年近い活動を続けてきた『サロン 2002』は、NPO法人となる設立総会を開き、新たな歩みをはじめた。中塚義実理事長が、サッカーボールとの出会いからはじまり、さらに1978年ワールドカップアルゼンチン大会から、開催されて3日目であるブラジル大会にいたるまで、社会的な背景を交えながら世界のサッカーと日本のサッカーの変遷が語られ、参加者からは思い出話とこれからのサッカーへの熱い願いが語られた。

《2014年7月 月例会報告》

\*\*\*\*\*

【テーマ】FIFA ワールドカップ・ブラジルを語る -観戦者・旅行者・研究者の立場から-

\*\*\*\*\*

【日時】2014年7月21日(月祝)19:00～23:00

【会場】フットボールサロン 4-4-2(墨田区江東橋 4-16-5 SK ビル B1)

【演者】本多克己((株)シックス)、笹原勉(日揮)、笠野英弘(筑波大学体育系)

【参加者(18名)】安藤裕一(インターナショナル SOS)、梅本嗣(広告会社)、大河原誠二(筑波大学附属高校サッカー部 OB)、笠野英弘(筑波大学体育系)、金子正彦(会社員)、岸卓巨(中央大学大学院)、小堀俊一(日本サッカー史研究会)、笹原勉((株)日揮)、嶋崎雅規(帝京高校ラグビー部)、徳田仁((株)セリエ)、中塚義実(筑波大学附属高校)、本多克己((株)シックス)、村松 邦子((株)ウェルネスシステム研究所/Jリーグ理事)、横山淳(横河武蔵野 FC コーチ)、ほか 4名

【概要】

1. 最高齢ジャーナリスト賀川浩さんと過ごした10日間 (本多克己)

サロンの最年長会員であり、かつ自社の会長でもある賀川浩さんの、89歳にして10回目のワールドカップの現地取材に、「カバン持ち」として同行した本多氏より、写真を交えながらのトーク。セルジオ越後氏が通訳を含めツアーをコーディネートし、現地では最高齢記者と

ということで多くの人から大切にもてなしてもらった。多くのブラジル人が日本最良であり快適な旅行であった。

最後のスライドはホテルの裏のビーチで大西洋を眺める賀川さん。「この海の向こうにアフリカがあって、奴隷がたくさん連れて来られたんやな。ヨーロッパには何度も行ったけど、大西洋をゆっくり眺めることはなかったのに、89歳になってこちら側から大西洋を眺めることになるとはなあ」賀川さんの夢はロシアにつながっていく。

## 2. 2014 ワールドカップ観戦ブラジル旅行（笹原 勉）

ワールドカップに5大会連続となる笹原氏の夫婦での現地観戦/観光旅行トーク。ゲームのチケットの入手方法から、国内線での各地への入り方を説明。クイアバのホテルがなくて困った際には、南アフリカ大会で知り合ったブラジル人（日本にも遊びに来た）が、ホテルをみつけてくれたて助かった。旅先で見知らぬサッカー好き同士が、国境を越えて楽しく話をする事ができる、ワールドカップ観戦旅行ならではの醍醐味を改めて堪能した。

## 3. 日・伯・独のサッカー比較-サッカー観を中心に（笠野英弘）

スポーツ組織（サッカー協会）とプレーヤーの価値観（サッカー観）について研究する、ドイツ留学の経験もある笠野氏は、ワールドカップの機会にブラジルの調査に行った。義父が日本でも活躍した元ブラジル人サッカー選手という縁で、ブラジル人の一般家庭に滞在、家庭の雰囲気や、観戦したブラジルーチリ戦などの感想もまじえて体験が語られた。元フィジカルコーチ、元プロサッカー選手協会の顧問弁護士、州サッカー協会関係者、フットサルクラブ/スポーツジム経営者、プロユース選手にサッカーができる環境やサッカー観について聞き取り調査を実施。少年期から経験する遊びの要素としてのサッカーが、今のブラジルのサッカーの強化につながっていることを学んだ。一方、10部までクラブが整備されて、システム化されているドイツは、サッカーの遊びの要素が少ないように見えるが、この国が優勝したことは興味深い。ただし、ドイツやヨーロッパではスポーツを楽しむものだという文化が根づいているともいえる。「スポーツはどうあるべきか」というテーマを笠野氏はさらに追求していく。

### 《2014年8月月例会報告》

\*\*\*\*\*

【テーマ】現役最年長記者賀川浩さんが語る

—2014FIFA ワールドカップ・ブラジルと U-18 フットサル—

\*\*\*\*\*

【日 時】2014年8月30日（月祝）19：10～1：00頃（賀川さんも残っておられた！）

【会 場】フットボールサロン 4-4-2（墨田区江東橋 4-16-5 SK ビル B1）

【演 者】賀川浩（スポーツジャーナリスト）

【参加者：会員・メンバー（14名）】安藤裕一（インターナショナル SOS/サロン 2002 理事）、大河原誠二（筑波大学附属高校蹴球部卒業生）、奥崎覚（会社員）、賀川浩（スポーツジャーナリスト）、春日大樹（筑波大学蹴球部）、金子正彦（会社員）、田嶋亮（筑波大学附属高校蹴球部卒業生/小学校教諭）、田中俊也（三日市整形外科）、茅野英一（帝京大学）、徳田仁（(株)セリエ）、中塚義実（筑波大学附属高校/サロン 2002 理事長）、本多克己（(株)シックス/サロン 2002 理事）、松岡耕自、ほか1名

【参加者：未会員（12名）】阿部博一、神本建、北原由、木之下潤、高平豊明（サッカー文化フォーラム&アーカイブス代表）、丹野吉己、羽廣太（fcFA FOOTBALL SHOP 店舗責任者）、松田トシユキ、矢作典史、山内博之（ビバ！サッカー研究会）、山下弘忠、和田一恵、

【報告書作成】春日大樹（筑波大学人文学類4年）

## 【概要】

### 第1部 第1回全日本ユース（U-18）フットサル大会について

「フットサル日本上陸20周年」（中塚義実）及び「全国大会設立の背景」（本多克己）について、それぞれの背景を説明したのち、賀川氏から本題が展開された。

日本の最初の室内サッカーは、1950年代初めに関西OB選抜対関西学生選抜の試合。ボールを止めるという基本技術に勝った関西OBが圧勝した。土地が狭い日本では、楽しむと同時に、サッカーの技術の向上のためにもフットサルは重要であることを長年認識してきた賀川氏は、「サッカー」を伝え広めると同時に、「フットサル」の普及に努めてきた。その成果が、2014年8月に開催されたJFA主催の全国U-18フットサル大会である。

88年前に始まった全国高校サッカー選手権が、今日の盛り上がりを見せているように、これからU-18で元気な若者たちがフットサルを盛り上げてくれることを期待している。

（補足、設立40年を迎えるFC神戸（日本最初の法人格クラブ）の設立、東京都U-18フットサルの開催（2001年）、第一回全国U-18フットサル大会の開催（2012年）に、それぞれ中心的な役割を果たした賀川氏、中塚氏、本多氏がこのムーブメントに貢献している）

### 第2部 2014FIFAワールドカップ・ブラジルについて

セルジオ越後さんが招待し帯同してくれた10日間の体験談。日本対コートジボワール戦（レシフェ）、アメリカ対ガーナ戦（ナタール）、日本対ギリシャ戦（ナタール）の3試合を観戦した。滞在することになった東北ブラジルは、ポルトガル艦隊が上陸した地帯で歴史を感じさせる地域である、また野性味溢れる広大な草原を長時間バスで移動、セルジオ越後さんとゆっくり話をすることができたのは思い出となった。サンパウロではサッカーミュージアムの壮大なスケールに、ブラジルと日本のサッカーの歴史の違いを実感した。優勝を目指したブラジルだが、ネイマールの負傷で、チームの調子が落ちたところをドイツに負けてしまったことが残念。ネイマールが犯されたファウルなど、ルールを守らないプレーに対してはきちんと処分すべきだ。

ネイマールが歴代の大選手の系列に入ると思わせる理由は、高い技術にとどまらず、チームの中での存在感（一番若いにも関わらず他の先輩選手を励ますなど）の大きさで、ペレと共通するものがみられる。

ブラジルの出来が悪かった原因は、スペイン代表の欠陥は、アルゼンチン代表の欠陥は、、、賀川節は続く。

優勝したドイツ代表は、精神的な要素、肉体的な要素に加えてボールを大事にする技術がかみ合った良いチームで、このチームが優勝したことはサッカーにとって良い傾向だと思った。

日本代表は、試合に勝つということへの気持ちを見せることができなかったが、監督が選手のモチベーションをどうやって高めるか、かつての名将クラマーの手法も披露。日本は技術は上達しても体格では勝てない中、戦い方を工夫する必要がある。有望な若手選手を上手く引き上げていくことも必要でありかつ重要である。

《2014年9月 月例会報告》

\*\*\*\*\*

テレビに映らなかったワールドカップ

\*\*\*\*\*

【日 時】2014年9月26日(金)19:00

【会 場】フットボールサロン 4-4-2(墨田区江東橋 4-16-5 SK ビル B1)

【演 者】宇都宮徹彦(写真家/ノンフィクションライター)

【参加者:会員・メンバー(14名)】安藤裕一(インターナショナル SOS/サロン 2002 理事)、宇都宮徹彦(写真家/ノンフィクションライター)、梅本嗣(会社員)、奥崎覚(会社員)、奥山純一(WEB エンジニア)、春日大 樹(筑波大蹴球部)、金子正彦(会社員)、北田典央、小池靖、佐藤一朗、茅野英一(帝京大学)、徳田仁((株)セリエ)、中塚義実(筑波大学附属高校/NPO サロン 2002 理事長)、中村敬(みどりサッカークラブ)

【参加者:未会員(13名)】有坂哲(都立石神井高校サッカー部 OB)、内田裕之(自由学園高校教諭)、石川淳一、大坪由里子(会社員)、樋口早智子(会社員)、高平豊明(株式会社 J-SIC/サッカー文化フォーラム代表)、湯浅 啓太(東京理科大)、水崎由宇呂(会社員)、羽廣太(fcFAFOOTBALLSHOP 店舗責任者)、宮田秀徳(会社員)、緑川貴則(南葛 SC 運営)、田中洋介(南葛 SC 事務局)、中村泰也(会社員)

【報告書作成】春日大樹(筑波大学人文学類 4年、筑波大学蹴球部)

【概 要】

今大会の特徴は、広大なブラジルが開催国となったため、移動距離とそれぞれの地域の気温差、湿度差、などが重なり合い、チームにとって本来の力を出しにくい状況で、取材する立場としても苦勞をした。

日本を出発する日本代表は、盛大な壮行会が開かれた一方で、ザッケローニは出発前に会見を行っていないことを残念に思った。アメリカ遠征は、高温多湿の環境で負荷の高いトレーニングを実施した。体調を崩す選手がでることを考えると、大会前の遠征に23名しか連れて行かない風潮は改善し、他の国のように25-30名同行させ、体調の悪い選手を帰国させるべきだと思う。取材は3日に1回は選手全員と会うことができるような配慮がされていた。

アルジェリア代表が32年ぶりに拵んだグループリーグ突破のチャンスをものにしたのを目の当たりにして、グループリーグ突破の重みを実感した。対して日本代表はグループリーグを突破することができなかったが、ザックジャパンの良い点を引き継いだ上で新しいアギーレジャパンとして発展することを望む。

ブラジルは、工事がなかなか進まずに本当に開催できるか不安はあったが、どんなことがあってもやってしまう FIFA と最後はなんとかしちゃうブラジルのコラボレーションによって成立した大会だった。しかし今大会ほど国が盛り上がっていなかった大会はなかった。ブラジル国民が冷めていたのは、日頃から最頂のチームがあるなどサッカーが日常の文化として根づいているためだろう。物価の高騰などに対する不満のほうが、大会に対する期待より大きいようであった。

ネイマールは世界中から注目を浴びるという尋常ではないプレッシャーの中で戦っていた。メディアへの対応も非常に良く、次回のワールドカップで成長した姿を見るのが楽しみである。ドイツが優勝したことは日本にとっても大きな意味があるが、それは2000年初頭に勝てなかった時代からコツコツと積み上げてきたものが実ったことを示したからだ。

ドイツが優勝した数日後、ブラジルのレストランにドイツサポーターが入って大騒ぎを始め

たところ、ブラジル人が彼らに拍手を送っていた。ホスト国として、良い試合をした相手をリスペクトし拍手を送れることに、W杯の素晴らしさを見た。きつい大会だったが、この景色をみて、また次の大会に向けて頑張ろうと思った。

#### 《2014年10月 月例会》

\*\*\*\*\*

【テーマ】ユース年代における7人制ラグビーの現状—第1回アシックスカップ全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会の開催に至るまでと今後の展望

\*\*\*\*\*

【日時】2014年11月1日(土) 17:10~19:10

【会場】筑波大学附属高校 3F 会議室 (東京都文京区大塚 1-9-1)

【演者】石渡利昭 ((公財)日本ラグビーフットボール協会高校委員会委員長/埼玉県立児玉高校) 川中子修 ((公財)全国高等学校体育連盟ラグビー専門部事務局長/都立町田の丘学園高等部)

【コーディネーター】嶋崎雅規 (NPO サロン 2002 理事/帝京高校)

【参加者(会員・メンバー) 9名】

浦和俊介 (介護職員)、河原工、岸卓巨 (中央大学大学院)、小池正通 ((株)La Esperanza)、小池靖 (サッカースポーツ少年団指導者)、嶋崎雅規 (帝京中学・高等学校)、徳田仁 ((株)セリエ)、名方幸彦 (BRS)、中塚義実 (筑波大学附属高校)

【参加者(未会員) 3名】石渡利昭、川中子修、山田研也 (筑波大学附属高校)

【2次会からの参加者】安藤裕一

【報告書作成】浦和俊介

【概要】

2015年7月にユース世代を対象とした第一回アシックスカップ、全国7人制ラグビーフットボール大会が長野県菅平で開催された。そもそも日本の7人制ラグビーは1993年に第1回ジャパンセブンスが開催されたのが最初の全国大会。高校生世代の全国大会は1998年に第1回セブンス選手権大会が開催された。2009年に、2016年のオリンピックに7人制ラグビーが採用されることが決まったこともあり、男女の選手の育成強化が図られている。ユースの有能な選手の強化のためのセブンスアカデミーもその一つ。県予選を勝ち抜いたチームが参加する第一回アシックスカップという全国大会が2014年7月に開催された。一方15人制では、高校のラグビー部員の少人数化を解消するため、他の高校と合同でチームを編成し15人制ラグビーの試合を行う全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会(コベルコカップ)が考案され、2014年8月に10回目を迎えている。参加者との質疑応答の中では、競技団体(ラグビー協会)と高体連が、それぞれ7人制と15人制という二つの競技の普及及び強化に取り組まなければならない中での課題と展望など意見が交換された。

《2014年11月 月例会》

\*\*\*\*\*

【テーマ】ドイツに学ぼう、育成システムとブンデスリーガ

\*\*\*\*\*

【日時】2014年11月20日（木）19：00～21：30

【会場】筑波大学附属高校3階会議室

【演者】山下則之（(一社)独日スポーツアカデミー協会 代表理事）、高田勝敏（SV Empor Berlin）

【参加者（会員・メンバー）12名】

安藤裕一（筑波大ハンドボール部OB）、牛木素吉郎（ビバ！サッカー研究会）、奥崎覚（株）コリー、春日大樹（筑波大学人文学類4年／蹴球部OB）、岸卓巨（中央大学大学院）、小池正通（株）La Esperanza）、小池靖（サッカースポーツ少年団コーチ）、齊藤宣彰（(有)JLA ASIA）、笹原勉（日揮）、高田勝敏（SV Empor Berlin）、中塚義実（筑波大学附属高校）、山下則之（(社)独日スポーツアカデミー協会）、

【参加者（未会員）3名】

石原俊秀（株）パルカ）、玉井大輔（都立国立高等学校ラグビー部OB）、嶋崎藍

【報告書作成者】春日大樹

【概要】

第1部 ドイツ研修について（山下則之）

ドイツ・ジャパン・フットサルフェスティバルは、山下氏の音頭とりにより、2012年より愛知の複数の会社が運営するフットサル場を共同で利用したフットサル大会。参加者にはドイツへのサッカー研修のチャンスが与えられ、サッカーを通じた日本とドイツの文化の交流を行っている。日本とドイツのサッカー文化の違いについて質疑が行われた。

第2部 早生まれ選手と地域活性（山下則之）

日本の育成は、早生まれが不利なシステムである。これが彼らのコンプレックスを助長している要素になっており改善の必要がある。山下氏がサポートする三重県桑名市のヴィアティン桑名（注2014年12月に「ヴィアティン三重」に改称）は地域に根ざした総合スポーツクラブで、Jリーグ入りを目指すサッカーチームの他、幅広い世代を対象に各種のスポーツや、ロボット製作といった企画を行うことで青少年の育成と地域の活性化を図っている。

第3部 SV Empor Berlin（以下エンポア）の活動について（高田勝敏）

エンポアは旧東ベルリン地区に1949年に創設されたクラブで、サッカー、バスケット、バドミントン、重量挙げ、チェスなど9種目が活動している。活動拠点となるヤーンスポルトパークは、運動公園のような場所で、人工芝2面と陸上トラック付きの天然芝1面を有し、スタジアム付きのサッカーグラウンドが併設されている。ベルリンの壁が崩壊した際に旧東ドイツの人口が流出し、これに伴い会員の70%を失ったが、90年代に1,290人の新たな会員と共に再編。育成部門は23チームあり（高田氏はU10の指導を担当）、育成部門からブンデスリーガにも毎年数名輩出している。6部のトップチームの84%という高い水準が育成チーム出身というのは他に例を見ない。休暇シーズンにクラブ内外の希望者（5歳から12歳を対象）に5日間の日程で実施するホリデーキャンプは160名参加する賑わい。幼稚園・小学校にエンポアのコーチが出向き、サッカーなどの運動を教えるプロジェクトや、幼稚園・小学校のトーナメント大会を主催することで、地域へ貢献しながらエンポアの認知度や愛着を高める努力をしている。



《2014年12月 月例会》

\*\*\*\*\*

お宝映像上映会兼忘年会

\*\*\*\*\*

【日 時】2014年12月28日(日) 19:00~21:00

【会 場】フットボールサロン 4-4-2 墨田区江東橋 4-16-5 SK ビル B1

【参加者(会員・メンバー 12名)】

安藤裕一(筑波大ハンドボール部 OB)、牛木素吉郎(ビバ!サッカー研究会)、大河原誠二(筑波大附属高 OB)、奥崎覚((株)コリー)、奥山純一(プログラマー)、春日大樹(筑波大学蹴球部 OB)、金子正彦(会社員)、岸卓巨(中央大学大学院)、小池正通((株)La Esperanza)、小池靖(サッカー少年団コーチ)、齊藤宣彰((有)JLA ASIA)、高平豊明(サッカー文化フォーラム)、田中俊也(三日市整形外科)、徳田仁((株)セリエ)、中塚義実(筑波大学附属高校)、松下徹(サロンアドバイザー)

【参加者(未会員) 3名】石川淳一(フットサル・サッカー観戦してます)、国島栄市(会社員)、中須賀希(筑波大附属高 OG)

【概要】

1972年欧州選手権決勝、西ドイツ対ソ連(西ドイツ 3対0 ソ連)のビデオ映像を鑑賞しながら、当時のサッカーならびに東西冷戦下の社会的状況について、様々な意見が交換された。また、2014年を無事に終了することができ、かつ10月にサロン 2002が特定非営利活動法人として認証されたことを祝い、かつ2015年以降の抱負や夢が語られた。

《2015年1月 月例会報告》

\*\*\*\*\*

【テーマ】小中高の体育の授業でサッカーをどう扱うか

\*\*\*\*\*

【日 時】2015年1月28日(水) 19:00~21:00

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室(東京都文京区大塚 1-9-1)

【演 者】中塚義実(筑波大学附属高校)

【参加者(会員・メンバー) 9名】

安藤裕一(筑波大ハンドボール部 OB)、石原俊英(株)パルカ)、牛木素吉郎(ビバ!サッカー研究会)、竹中茂雄(FC品川)、谷口昭彦(静岡産業大学)、名方幸彦(文京教育トラスト)、中塚義実(筑波大学附属高校)、森政憲(筑波大学大学院)、山下則之((社)独日スポーツアカデミー協会)、

【参加者(未会員) 5名】中山雅雄(筑波大学)、西山瞳子(筑波大学附属中学)、松田薫二・福田哲郎・漆間亜美香(日本サッカー協会)

【概要】

中塚氏は、2003年1月の月例会で「高校体育におけるサッカーの取り上げ方—体育実技と体育理論の実践報告」と題して報告している。また2015年1月24日に「第10回筑波大学附属小・中・高 体育科・保健体育科合同研究会」で、小3男女、中2女子、高2男女のサッカーの授業を公開して意見交換も行った。今回はこれらの続編として「体育の授業におけるサッカー」について、スライドとビデオを用いながら、楽しむ要素をふんだんに取り入れ、ユニーク

な指導を披露。

「サッカーは少年を大人にし、大人を紳士にする」(D・クラマー)という言葉に代表されるように、サッカー(スポーツ)は人間形成に大きく貢献できるはずである。すべての児童・生徒が小1から高3まで取り組む体育の授業は、青少年の心身の発達に貢献するだけでなく、長い人生においてスポーツとどうかかわるかを左右する大変重要な機会、そしてサッカーはその体育におけるメジャースポーツの一つである。しかし「サッカーの授業はやりにくい」と感じる先生が多いため、JFAでは「小学校体育サポートプロジェクト」を発足させ、学校体育への働きかけを開始した。

小中高の各段階で、サッカーの、あるいはサッカーを通して「何を」「いつ」「どのように」学ばせるのか、最終的にはどうなってほしいのか…。さまざまな分野の参加者と活発な意見交換が行われた。

#### 《2015年2月 月例会報告》

\*\*\*\*\*

【テーマ】 サロン 2002 交流会

\*\*\*\*\*

【日時/会場】 2015年3月8日(日)

第1部 フットサル交流 17:00~18:00

@MIYAMOTO FUTSAL PARK マルイ錦糸町(東京都墨田区江東橋 3-9-10 マルイ屋上)

第2部 会員交流ワークショップ&パーティ 18:30~22:00

@football salon 4-4-2(墨田区江東橋 4-16-5 SK ビル B1F)

【参加者(会員・メンバー) 13名】

安藤裕一、今廣佳郎、小川有奈、梅本嗣、春日大樹、金子正彦(WSのみ)、北田典央、小池靖、佐藤大介、笹原勉、高平豊明(WSのみ)、徳田仁(WSのみ)、中塚義実、

【概要】

今回は、サロン 2002 史上初めて、“理事長以外の理事たち”で企画した月例会であった。月例会の常連も、新たに参加した会員も、みんなが一緒になって、フットサルで足を動かし、ワークショップで頭と口を動かしながら、仲間を知り、今後のサロン 2002 の活動を創り出す趣旨で開催された。

フットサルでは、好プレー、珍プレーが続出。参加者が充実した汗を流してから、フットボールサロン 4-4-2 に場所を移して、交流会ワークショップを実施。他己紹介で仲間の意外な面を知った後、「知りたいこと」、「やりたいこと」という課題に対して活発なグループ討論が行われ、数年分の月例会テーマに相当するのではないかと思えるほど、多彩なアイデアが生み出された。

《2015年3月 月例会報告》

\*\*\*\*\*

【テーマ】賀川さん FIFA 会長賞受賞記念講演会  
「マイ・フットボール・クロニクル 1924-2015」

\*\*\*\*\*

【日時】2015年3月25日(水) 19:00~20:30 講演会  
20:30~ お祝いパーティ

【会場】フットボールサロン 4-4-2

【演者】賀川浩(サッカージャーナリスト/NPO法人サロン2002)

【参加者(会員・メンバー)12名】阿部博一、安藤裕一、本多克己、牛木素吉郎、小池靖、  
菊地悟、梅本嗣、小池正道、徳田仁、中塚義実、谷口昭彦、佐藤一朗

【参加者(未会員)10名】榎野晋司、原田秀樹、国島栄市、田邊雅之、谷口昭彦、河野遼平、  
高島正暉、北原由、原陽司、青木伸彦、藤村孝平

【概要】

NPO法人サロン2002の会員の賀川浩さんがFIFAバロンドール授賞式において、日本人で、  
またジャーナリストで初めてFIFA会長賞を受賞されたことを受けて、東京・神戸の2会場で  
記念講演会を開催した。

東京では「ユースフットサル選抜トーナメント2015」に合わせて上京されるタイミングで「講  
演会」を企画。神戸では賀川さんが蔵書を寄託している「神戸賀川サッカー文庫」が設置され  
ている神戸市立中央図書館との共催となった。授賞式の土産話に加え、特攻隊として戦地に赴  
いた戦時中の逸話などが語られた。

---

注) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあく  
までもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定  
するものではありません(ご本人の了解が得られた方のみ公開しています)

## Ⅱ.クーベルタン・嘉納ユースフォーラム 2015 報告

### 1. 国内版ユースフォーラムの実施に至るまで

2年に一度開かれる「国際ピエール・ド・クーベルタン・ユースフォーラム (YF)」に2011年(北京)、2013年(リレハンメル)と筑波大学附属高校の生徒2名が参加した。引率者として両大会に帯同し、世界中の高校生がオリンピズムを学びながら交流を深めていく姿を目の当たりにし、「日本でもYFができないだろうか」と考えた。

関連する諸機関と調整しながら、CORE主催、特定非営利活動法人サロン2002共催、特定非営利活動法人日本オリンピックアカデミー後援で2015年3月13日(金)～15日(日)、筑波大学で標記フォーラムを開催することになった。第10回国際YF(ピエスタニィ=スロバキア)への参加生徒7名の選考の場ではあるが、まずは日本の高校生にオリンピズムを学ばせる(感じてもらう)ことが目的である。日本独自のオリンピック教育を国内外に示すという意図は、「クーベルタン-嘉納ユースフォーラム」という名称に込められた。

### 2. クーベルタン-嘉納ユースフォーラム 2015 の実際

はじめての国内版ユースフォーラムの参加校は、筑波大学附属高校・附属駒場・附属坂戸と、趣旨に賛同した帝京高校・自由学園・中京大学附属中京高校である。男女15名、計30名の高校生が、さまざまな活動を通してオリンピズムを学び、交流を深めた。初日は学校紹介と「野性の森」での野外活動、2日目は嘉納治五郎やクーベルタンについての講義、陸上競技場でのスポーツテスト、英語によるグループ討議、最終日はグループ討議の発表と筆記テストと、盛り沢山の2泊3日であった。締切と誌面の都合で詳細は割愛するが、生徒の様子をみていると、このYFが、参加生徒にとって大変有意義で貴重な経験となったことがわかる。

今後も日本と世界をつなぐオリンピック教育の場として続けていきたい。

【文責：中塚義実】

### Ⅲ. ユースフットサル選抜トーナメント報告

2012年に中塚、本多などが中心となって創設した「U-18フットサルトーナメント」を、本年度から日本フットサル連盟主催、サロン2002共催の「ユースフットサル選抜トーナメント2015」として開催。2014年8月にJFA主催の「第1回全日本ユース(U-18)フットサル大会」が行われたが、今後も春季の大会として継続していく方針。出場チームは地域のフットサル連盟が選出とし、各地域の状況に応じ選抜チーム、単独チームを問わず多様な形態での出場を受け入れることで地域ごとの普及・強化に寄与する。

開催目的：フットサル界の底辺の拡大の一環として、ユース年代におけるフットサル選手の試合機会の創出及びユース年代の選手の技術向上を目指すことを目的として、本大会を開催する。

- 1.名称：ユースフットサル選抜トーナメント2015
- 2.主催：一般財団法人日本フットサル連盟
- 3.共催：特定非営利活動法人サロン2002
- 4.主管：公益財団法人東京都サッカー協会、東京都フットサル連盟
- 5.後援：公益財団法人日本サッカー協会、一般社団法人北海道フットサル連盟、東北フットサル連盟、関東フットサル連盟、北信越フットサル連盟、東海フットサル連盟、関西フットサル連盟、中国フットサル連盟、四国フットサル連盟、九州フットサル連盟（予定）
- 6.協賛：日本ウェルネススポーツ大学
- 7.協力：株式会社シックス
- 8.期日：2015年3月24日（火）～25日（水）
- 9.会場：墨田区総合体育館

# ユースフットサル選抜トーナメント2015

(2015年3月24日～25日 墨田区総合体育館)

## 【1次ラウンド】

3月24日(火)・25日(水)

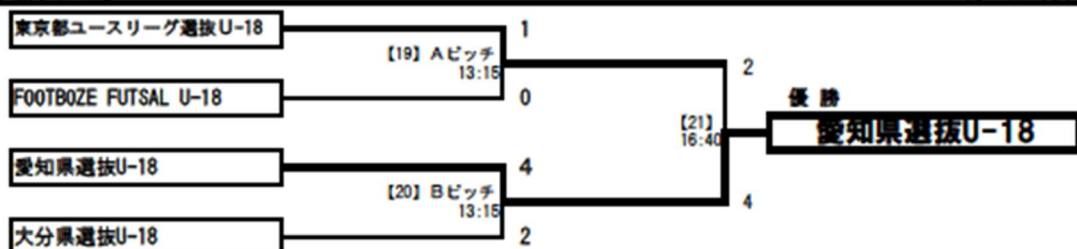
順位	Aグループ	八戸工業大学第一高校 (東北地域代表)	浜田フットサルクラブU-18 (中国地域代表)	富山県U-18選抜 (北信越地域代表)	FOOTBOZE FUTSAL U-18 (関東地域第1代表)	勝点	勝利	引分	敗戦	得点	失点	得失差
4	八戸工業大学第一高校 (東北地域代表)		2 ● 11	3 ● 5	2 ● 9	0	0	0	3	7	25	-18
2	浜田フットサルクラブU-18 (中国地域代表)	11 ○ 2		6 ○ 1	0 ● 1	6	2	0	1	17	4	13
3	富山県U-18選抜 (北信越地域代表)	5 ○ 3	1 ● 6		3 ● 4	3	1	0	2	9	13	-4
1	FOOTBOZE FUTSAL U-18 (関東地域第1代表)	9 ○ 2	1 ○ 0	4 ○ 3		9	3	0	0	14	5	9
[1]	3/24 10:00	Aピッチ	八戸工業大学第一高校	2 - 11	浜田フットサルクラブU-18							
[2]	3/24 10:00	Bピッチ	富山県U-18選抜	3 - 4	FOOTBOZE FUTSAL U-18							
[7]	3/24 14:15	Aピッチ	八戸工業大学第一高校	2 - 9	FOOTBOZE FUTSAL U-18							
[8]	3/24 14:15	Bピッチ	浜田フットサルクラブU-18	6 - 1	富山県U-18選抜							
[13]	3/25 8:10	Aピッチ	八戸工業大学第一高校	3 - 5	富山県U-18選抜							
[14]	3/25 8:10	Bピッチ	浜田フットサルクラブU-18	0 - 1	FOOTBOZE FUTSAL U-18							

順位	Bグループ	兵庫県選抜U-18 (関西地域第1代表)	北海道U-18選抜 (北海道地域代表)	鹿島学園高校 (関東地域第2代表)	愛知県選抜U-18 (東海地域代表)	勝点	勝利	引分	敗戦	得点	失点	得失差
4	兵庫県選抜U-18 (関西地域第1代表)		2 ● 5	2 ● 21	1 ● 4	0	0	0	3	5	30	-25
3	北海道U-18選抜 (北海道地域代表)	5 ○ 2		3 ● 6	2 ● 3	3	1	0	2	10	11	-1
2	鹿島学園高校 (関東地域第2代表)	21 ○ 2	6 ○ 3		3 ● 6	6	2	0	1	30	11	19
1	愛知県選抜U-18 (東海地域代表)	4 ○ 1	3 ○ 2	6 ○ 3		9	3	0	0	13	6	7
[3]	3/24 11:25	Aピッチ	兵庫県選抜U-18	2 - 5	北海道U-18選抜							
[4]	3/24 11:25	Bピッチ	鹿島学園高校	3 - 6	愛知県選抜U-18							
[9]	3/24 15:40	Aピッチ	兵庫県選抜U-18	1 - 4	愛知県選抜U-18							
[10]	3/24 15:40	Bピッチ	北海道U-18選抜	3 - 6	鹿島学園高校							
[15]	3/25 9:35	Aピッチ	兵庫県選抜U-18	2 - 21	鹿島学園高校							
[16]	3/25 9:35	Bピッチ	北海道U-18選抜	2 - 3	愛知県選抜U-18							

順位	Cグループ	高知中央高校 (四国地域代表)	TEAM AUELU U-18 (関西地域第2代表)	東京都ユースリーグ選抜U-18 (関東地域)	大分県選抜U-18 (九州地域代表)	勝点	勝利	引分	敗戦	得点	失点	得失差
3	高知中央高校 (四国地域代表)		5 ○ 1	3 ● 9	3 ● 8	3	1	0	2	11	18	-7
4	TEAM AUELU U-18 (関西地域第2代表)	1 ● 5		1 ● 14	1 ● 19	0	0	0	3	3	38	-35
1	東京都ユースリーグ選抜U-18 (関東地域)	9 ○ 3	14 ○ 1		5 ○ 4	9	3	0	0	28	8	20
2	大分県選抜U-18 (九州地域代表)	8 ○ 3	19 ○ 1	4 ● 5		6	2	0	1	31	9	22
[5]	3/24 12:50	Aピッチ	高知中央高校	5 - 1	TEAM AUELU U-18							
[6]	3/24 12:50	Bピッチ	東京都ユースリーグ選抜U-18	5 - 4	大分県選抜U-18							
[11]	3/24 17:05	Aピッチ	TEAM AUELU U-18	1 - 14	東京都ユースリーグ選抜U-18							
[12]	3/24 17:05	Bピッチ	高知中央高校	3 - 8	大分県選抜U-18							
[17]	3/25 11:00	Aピッチ	高知中央高校	3 - 9	東京都ユースリーグ選抜U-18							
[18]	3/25 11:00	Bピッチ	TEAM AUELU U-18	1 - 19	大分県選抜U-18							

## 【決勝ラウンド】

3月25日(水)



準決勝の組み合わせ		
Aグループ2位が出る場合	[19] Aグループ1位vsBグループ1位	[20] Cグループ1位vsAグループ2位
Bグループ2位が出る場合	[19] Bグループ1位vsCグループ1位	[20] Aグループ1位vsBグループ2位
Cグループ2位が出る場合	[19] Cグループ1位vsAグループ1位	[20] Bグループ1位vsCグループ2位

## IV. 賀川さん関連行事報告

\*\*\*\*\*

【テーマ】賀川さん FIFA 会長賞受賞記念講演会  
「マイ・フットボール・クロニクル 1924-2015」

\*\*\*\*\*

【日時/会場】

◇東京会場

2015年3月25日（水）19:00～20:30 講演会

20:30～ お祝いパーティ

@フットボールサロン 4-4-2

◇神戸会場

2015年3月28日（土） 13:30～15:30

@神戸市中央図書館 2号館 3階閲覧室

◇東京会場

【演者】賀川浩（サッカージャーナリスト/NPO 法人サロン 2002）

【参加者（会員・メンバー）12名】阿部博一、安藤裕一、本多克己、牛木素吉郎、小池靖、菊地悟、梅本嗣、小池正道、徳田仁、中塚義実、谷口昭彦、佐藤一朗

【参加者（未会員）10名】榎野晋司、原田秀樹、国島栄市、田邊雅之、谷口昭彦、河野遼平、高島正暉、北原由、原陽司、青木伸彦、藤村孝平

【概要】

NPO 法人サロン2002の会員の賀川浩さんが FIFA バロンドール授賞式において、日本人で、またジャーナリストで初めて FIFA 会長賞を受賞されたことを受けて、東京・神戸の2会場で記念講演会を開催した。

東京では「ユースフットサル選抜トーナメント 2015」に合わせて上京されるタイミングで「講演会」を企画。神戸では賀川さんが蔵書を寄託している「神戸賀川サッカー文庫」が設置されている神戸市立中央図書館との共催となった。授賞式の土産話に加え、特攻隊として戦地に赴いた戦時中の逸話などが語られた。

---

注) 参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません（ご本人の了解が得られた方のみ公開しています）

## V. スキンプロジェクト報告

5月6日（水祝）に筑波大学附属高校で行われたワークショップの報告です。

この日は朝からグラウンドで DUO リーグが 3 試合、体育館では女子高生フットサル大会（筑波大附高女子蹴球部主催。6校参加）、会議室と体育館ではフットサル4級審判員取得講習会（TFA 審判委員会/U-18フットサルリーグ主管）が開かれていました。そしてその合間に、コート面の脇（体育館とグラウンドの間のスペース）で、「使えなくなったサッカーボールでコインケースをつくる」「使い終わったラインテープの芯からペン立てを作る」という二つのワークショップを開き、あいているときに随時参加するという形式で進めました。幸い好天に恵まれ、青空のもとに開かれたブルーシートの上で展開しました。

DUO リーグの最初の試合は巣鴨 A 対筑波大附。4-0 で完勝した巣鴨の生徒が試合を終えてやってきました（筑波大附の生徒は体育館で女子の応援）。ペン立てに 10 名ほど、コインケースづくりに 3 名ほどに分かれ、楽しそうに取り組んでいます。

そのうちフットサルの女子高生たちも試合のあき時間に参加します。駒込高校、富士見丘中高、筑波大附高の女子高生です。郁文館高校や筑波大附サッカー部の男子生徒も加わり、ワークショップのブルーシート上は大混雑。入れ替わり立ち代わりなので気軽に参加できたのかもしれない。ぶらっとやって来た筑波大附の OB・OG も「やっていけや」の一言に反応します。やってみるとこれがおもしろい！ 貞静学園サッカー部員も楽しそうにやっています。品川から竹中茂雄さんもぶらっとやって来ました（1時間ほどで別のところに出かけましたが）。京都に帰省中の春日大樹さん、久しぶりの休日の岸卓巨さんもやってきました。いろんな人がぶらっとやってくるのがいいですね。

一段落ついてすいてきたところで私もつくってみました。ペン立ては約 20 分、コインケースは 30 分ぐらいでしょうか（実際はもっとやっていたかもしれないが夢中になったので時間を忘れた）。なかなか良いできばえで気に入っています。

最後まで残ってやっていたのは錦城高校女子フットサル部の生徒たち。誕生日の友達にあげるんだと言って、わいわい言いながらつくっています。17 時ごろには涼しくなってきた店じまい。皆で片付けをして終了。おとなたちは護国寺の華の舞へ繰り出しました。

ペン立てづくりの青木伸彦さん（TFA フットサル委員会運営部）とコインケースづくりの佐藤いちろうさん（靴郎堂本店）のコラボがよかったです。1 日で 50～60 名は参加したでしょうか。とても楽しいイベントで、今後につながるものでした。

【文責：中塚義実】